

# 法政大学アカデミー合唱団 50周年フェスティバル

2011年7月10日(日)  
昭和女子大学 人見記念講堂

## 法政大学校歌

佐藤春久作詞

若きわれらに

命のかかり

ここに捧げて

あゝ愛す母校

みづかす窓の

富士の巖の雲

ほたる集めん

内の外濠

良き師 良き友

つとめ候へ

法政おゝわが母校

法政おゝわが母校

本日はお忙しい中、法政大学アカデミー合唱団 50 周年フェスティバルにお越しいただき、誠にありがとうございます。団員一同、心より御礼申し上げます。

アカデミー合唱団は今年で創立 50 周年を迎えました。先の天災により今年度の出だしは大変でしたが、そのような中でも団員の一人一人が挫けず、新しく入団してきた新入生と共に頑張ってきたおかげで本演奏会を無事開催することができました。

このフェスティバルでは、歌うことの楽しさを伝える「新しい歌」や、歴代の学生指揮者が思い出に残る曲を演奏致します。特に 50 周年記念ステージ「つながる」では、半世紀だからこそできる 1 期から 50 期までの学生指揮者が紡いでいく歌のリレーに、歴史の長さを感じずにはいられません。

まだまだ落ち着かない状況が続く中、私どもの演奏が皆様の束の間の癒しとなることができましたら幸いです。

最後になりますが、日ごろから厳しくも温かくご指導くださる諸先生方、そして本演奏会にご参加、ご支援下さいました OB の皆様、並びに本演奏会を開催するに当たり、様々な形でお力添え下さった皆様に厚く御礼申し上げます。

法政大学アカデミー合唱団  
平成 23 年度 代表 小岩尚樹

# Program

法政大学校歌

作詞 佐藤春夫

作曲 近衛秀麿

## 1. 法政大学アカデミー合唱団

### 「新しい歌」

#### I. 新しい歌

作詩 G. ロルカ / 訳 長谷川四郎

#### II. うたを うたう とき

作詩 まど・みちお

#### III. きみ歌えよ

作詩 谷川俊太郎

#### IV. 鎮魂歌へのリクエスト

作詩 L. ヒューズ / 訳 木島始

#### V. 一詩人の最後の歌

作詩 H. アンデルセン / 訳 山室静

## 2. 法政大学アカデミー フェスティバル合唱団

### 「Gloria」

#### I. Gloria

#### II. Laudamus te

#### III. Domine Deus

#### IV. Domine fili unigenite

#### V. Dominus Deus, Agnus Dei

#### VI. Qui sedes ad dexteram Patris

Intermission

## 3. 法政大学アカデミー合唱団

### 法政大学アカデミーフェスティバル合唱団

#### 50周年記念ステージ

#### 「つながる」～歴代指揮者が紡ぐ歌リレー～

##### 1. ひよっこ

混声合唱曲集「わたしの動物園」より

阪田寛夫作詞 大中恩作曲

##### 2. 波の果て 陽が落ちるとき

混声合唱曲「島よ」より

伊藤海彦作詩 大中恩作曲

##### 3. ラシーヌの雅歌

Jean Racine 作詩 Gabriel Fauré 作曲 萩原英彦音訳

##### 4. My Gentle Harp

Alice Parker 編曲

##### 5. I Could Have Danced All Night

ミュージカル「MY FAIR LADY」より

Alan Jay Lerner 作詞 Fredrick Loewe 作曲

Eddy Rhein 編曲

##### 6. Soon Ah Will Be Done

William L. DAWSON 編曲

##### 7. 春に

混声合唱曲集「地平線のかなたへ」より

谷川俊太郎作詩 木下牧子作曲

##### 8. 行け、我が想い、黄金の翼に乗って

オペラ「NABUCCO」より

G.F.F. Verdi 作曲

##### 9. 鳥が

川崎洋の詩による五つの混声合唱曲

「やさしい魚」より

川崎洋作詩 新実徳英作曲

##### 10. Tonight

ミュージカル「WEST SIDE STORY」より

Stephen Sondheim 作詞

Leonard Bernstein 作曲 福永陽一郎編曲

##### 11. 大地讃頌

混声合唱のためのカンタータ「土の歌」より

大木惇夫作詩、佐藤真作曲

##### 12. 早春

混声合唱組曲「魔王」より

尾崎左永子作詩 佐藤真作曲

# Message



法政大学  
総長  
増田 壽男

法政大学アカデミー合唱団 50周年フェスティバルの開催を心よりお喜び申し上げます。

アカデミー合唱団は、1962年に発足し、現在は、約120名もの団員を擁する、本学を代表する学生団体であり、今年、創立50周年を迎えた歴史ある団体の一つでもあります。

これまで、数多くの学生が在籍し、多くの卒業生が巣立ってゆきましたが、この間、数々のコンクールにおいて優秀な成績を収めるなど、本学が誇る学生団体へと成長してまいりました。新陳代謝を繰り返しながらも、今なお昔からの伝統が引き継がれている姿に、現役生や卒業生の皆さんのたゆまぬ努力と、指導者の先生方のご苦労を感じ、心より敬意を表する次第であります。

今回の50周年フェスティバルでは、50年の歴史を振り返るとともに、創立から現在まで「つながる」をテーマに開催されます。1期から50期までの中から選抜された学生指揮者が、思い出に残る曲目を演奏するという、50周年ならではの企画も用意されております。これらの演奏を通して、これまでのアカデミー合唱団の軌跡を皆さまにお伝えできるのではないのでしょうか。

この日のために、練習を重ねてきた現役生や卒業生の皆さんが、この舞台上素晴らしい演奏を披露してくれることを期待するとともに、アカデミー合唱団のさらなる飛躍を心より祈念いたします。

会場に足を運んでくださった皆さまにも、本合唱団の演奏をご堪能いただくとともに、今後の彼らの活躍にさらなるご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。



法政大学アカデミー合唱団  
部長  
西田 幸介

本日は、「法政大学アカデミー合唱団 50周年フェスティバル」にご来場を賜り誠にありがとうございます。50年の長きにわたり、アカデミー合唱団（アカデミー）がその活動を継続することができたのは、平素よりご指導頂いている指導者の先生方、演奏会に足をお運び頂いている皆さま、現役団員としてアカデミーを支え卒業後も物心両面から多大なご支援を頂戴しているOBの方々のお陰です。心より御礼申し上げます。

さて、一言に50年と申しましても、アカデミーの歩みは決して平坦なものではありませんでした。アカデミーは、学生運動が盛んであった時代にその産声を上げ、その後、いかなる状況の下でも活動を続けて参りました。アカデミーの30年記念誌である「陽ちゃんと歩んだ30年」（OB会発行）を紐解くと、「法政大学混声合唱団」が分裂してアカデミーが発足したこと、大学紛争時の練習会場確保の困難、一部学部が多摩キャンパス移転に伴う練習方法の変更などを知ることが出来ます。しかし、その間にも活動が絶えることはなく、定期演奏会とアーリーサマーコンサートはいうまでもなく、アカデミーの最大の特徴ともいえる演奏旅行は、占領下の沖縄での公演（1967年）、ヨーロッパ演奏旅行（1982年）を含めて今日まで絶えることなく行われています。当然のことかもしれませんが、「演奏をやめない」というのがアカデミーの信条であるといえます。

アカデミーは学生団体ですから、毎年メンバーが入れ替わり、代表（かつての責任者）や学生指揮者などは代替わりを繰り返します。それでも、この50年間、一貫して、指導者の先生方が団員に教えてきたもの、あるいは先輩が後輩に伝えてきたものは何だったのか、つまり、いわば「アカデミーの思想」とは何か、このフェスティバルがこのことを問い直すよい機会になることを期待しています。



法政大学アカデミー合唱団 OB  
会長  
橋本 直紀

本日は、ご多忙の中、お越しいただき誠にありがとうございます。

法政大学アカデミー合唱団は、1962年10月22日に混声合唱団から分かれて、故福永陽一郎先生を常任指揮者にお迎えスタートしました。それから数えて今年2011年は数え年で50年に当たる年になります。

この間、わがアカデミーは、大学混声合唱としては初の全日本合唱コンクール3年連続金賞受賞（1975～77年）、ベルギーで開催された「第8回ヨーロッパ・カンタータ」への参加（1982年）、全国約150都市への演奏旅行など他の大学合唱団にも引けを取らない活動を行ってきました。これは、その時々々の現役学生たちの努力の成果でもありますが、故福永陽一郎先生、故関屋晋先生、故北村富一先生、そして現在のお忙しいなか毎年定期演奏会と演奏旅行で指揮をお引き受けくださる浅井敬豊先生、東京の演奏会で毎回客演指揮をお願いしている小久保大輔先生、ヴォイストレーナーとして40年以上の長きに渡りご指導をいただいている大久保昭男先生、30周年から20年にわたりお世話になってきた女声ヴォイストレーナーの故瀬戸理恵子先生、また、常任指揮者を置いていないアカデミーを音楽全般にわたりご指導いただいているピアニストの久置之宜先生はじめ多くの先生方のご指導のお陰であります。この場をお借りして深くお礼申し上げます。

本日は、歴代学生指揮者のリレーによる現役・OB 合同演奏で、この50年を合唱でつなぐステージをご披露させていただきます。

そして瀬戸先生、本当にお世話になりました。心からご冥福をお祈りいたします。

最後に、アカデミーがこの先もさらに発展していくことをOBの一人として願って、お礼のご挨拶とさせていただきます。

## 畑中 良輔

はたなか りょうすけ

東京藝術大学名誉教授、新国立劇場初代芸術監督、藤沢市市民会館文化担当委員、1985年紫綬褒章受章、90年毎日芸術賞特別賞受賞、94年勲三等旭日中綬章受章、97年モービル音楽賞、99年神奈川文化賞受賞、2000年文化功労賞顕彰、06年恩賜賞・日本芸術院賞受賞、07年青春「オペラ歌手誕生物語」で日本エッセイスト・クラブ賞受賞、08年日本芸術院会員

法政アカデミーにおいては、第10回定期演奏会＜ブラームスの夕べ＞にて「運命の歌」を、OB合唱団においては3rdコンサートで「水のいのち」、4thコンサートで「ジプシーの歌 op.103」を指揮。

私が法政アカデミーとステージを共にしたのは、もう何十年前の事だったろう。多分半世紀以来だったかもしれない。福永陽一郎君から「今、法政のコーラスが上昇中なの。今度の演奏会に賛助出演してよ」と云われ、旧・青年会館で合唱曲の中のソロと単独ステージをつとめたのが始まりで、何を歌ったのか、その年月日も今となっては定かでない。ただその時の写真は残っている。

それから又、何十年か経って、今度は一ステージ権を振る事になった。この時はブラームスの「運命の歌」を振ったように覚えている。最初の種吉の時からよく予言が行き届いて「明日日本番でもいいね」と云ったのを覚えている。前半、神々の平和な幸福のハーモニーから後半、人間世界の惨状へと移り、人類滅亡の予言が凄まじいドラマの中で歌われ、全員、ヘルダーリンの予言を歌い抜いた名演となった。その何十年か前の「人間はやがて暗黒の中に消えていくだろう」の予言はいま、われわれの上に降りかかっている。

それから又何十年後、法政アカデミーのOBのステージで「水のいのち」を振った。やさしい雨どころか、モロに台風の直撃下でのステージだった。お客がいらないのでは？と案じていたのだが、その台風の中、たくさんのお客が集まって下さった。

今回は私を法政アカデミーに引き合わせてくれた福永陽一郎君の孫が大きくなり、立派な権を振る。時の過ぎるのは早い！

## 大中 恩

おおなか のぶみ

作曲家

法政アカデミーにおいては、「わたしの動物園」「鳥よ」「風と花散」「風のうた」「心の歌」等々、多数の作品が取り上げられている。1977年には、作曲家自身の指揮により「わたしの動物園」を演奏した。

法政大学アカデミー合唱団、50周年フェスティバル、本当におめでとうございます。

なんといっても、「法政大学アカデミー合唱団」といえば、「福永陽一郎」と浮かんでくる。要するに藤ちゃん先生の存在ですな。彼とは、本当によく、議論したり、楽しい話をしたり…。彼はどうも、作曲家自身が自分の作品を指揮する事に不満を持っていたらしく、演奏は演奏家に任せろと言いたかったのでしょう。そこに一理あることも認めるのですが、お互いに苦しかったので…。でも、彼ほどの大指揮者で、私の作品を、あんなに多く採り上げてくれた人はいなかったの、やっぱり「藤ちゃん、ありがとう!!」です。

法政大学アカデミー合唱団のご健在を、心から嬉しく思っています。

## 佐藤 眞

さとう しん

作曲家

元・東京藝術大学音楽学部教授

法政アカデミーにおいては、第一回定期演奏会での「魔王」を始め、「旅」「土の歌」などが絶賛も取り上げられている。2009年には、作曲家自身の指揮により「魔王」と、アンコールでは「大地讃頌」を演奏した。

法政大学アカデミー合唱団の皆さん、50周年フェスティバルの開催おめでとうございます。今、こうしてこの文章を書き始めると、一昨年青さんと一緒に「魔王」を演奏したときのことが、次々と思い出されてきます。

まず、浅井敬重先生から電話で指揮のご依頼があったこと。先生は音楽に対して純粋で素朴な情熱をいつまでも失わない誠にも非凡な方です。その心から敬愛する先生のご依頼を受け、喜んで二つ返事でお引き受けしたのを覚えています。

次に、コンサートの打ち合わせを上野の精養軒のロビーでしました。そのときピアノの久置之宣先生が、わざわざメンバーに同行して下さいました。先生は名門中の名門のご出身ながら、とても気さくにわれわれとも飲みかつ語るという魅力的な方で、すばらしいピアニストであることはいまさら言うまでもありません。先生がアカデミーの精神的支柱として、深い信頼と尊敬を受けていることは、直ぐに見てとれました。

この二人の偉大な先生のもとでのアカデミーの将来は、誠に前途洋々たるものであります。ますますのご発展を心から祈念してご挨拶といたします。

## 新実 徳英

にいみ とくひで

作曲家

東京藝術大学卒業および同大学院修了。現在、梨園学園大学院大学教授、東京音楽大学客員教授。

法政アカデミーにおいては、「幼年連弾」(原芝E24よりアカデミーの演奏で音源化)、「やさしい鳥」、「ぶどう畑み」、「祈りの虹」等が、絶賛も取り上げられている。2008年には、作曲家自身の指揮により「幼年連弾」と、アンコールでは「鳥が」を演奏した。

50周年おめでとうございます。

「鳥が」は人間と自然への賛歌です。今こそ高らかに、そして想いを込め、その想いが東日本に、全国に届くよう歌い上げてください。美しく、力強く、優しく！

## 50周年記念ステージ「つながる」～歴代指揮者が紡ぐ歌リレー～

ピアノ 久邇之宣

ハープ 山崎祐介

1. ひよっこ 混声合唱曲集「わたしの動物園」より  
阪田寛夫 作詞 大中恩 作曲 岸 一隆 指揮
2. 波の果て 陽が落ちるとき 混声合唱曲「島よ」より  
伊藤海彦 作詩 大中恩 作曲 関 一雄 指揮
3. ラシーヌの雅歌  
Jean Racine 作詩 Gabriel Fauré 作曲 萩原英彦 音訳 早川 功 指揮
4. My Gentle Harp  
Alice Parker 編曲 渡辺直三 指揮
5. I Could Have Danced All Night ミュージカル「MY FAIR LADY」より  
Alan Jay Lerner 作詞 Fredrick Loewe 作曲 Eddy Rhein 編曲 伊藤泰志 指揮
6. Soon Ah Will Be Done  
William L.DAWSON 編曲 田中 靖 指揮
7. 春に 混声合唱曲集「地平線のかなたへ」より  
谷川俊太郎 作詩 木下牧子 作曲 伊澤信昭 指揮
8. 行け、我が想い、黄金の翼に乗って オペラ「NABUCCO」より  
G.F.F.Verdi 作曲 四方裕平 指揮
9. 鳥が 川崎洋の詩による五つの混声合唱曲「やさしい魚」より  
川崎洋 作詩 新実徳英 作曲 関 成利 指揮
10. Tonight ミュージカル「WEST SIDE STORY」より  
Stephen Sondheim 作詞 Leonard Bernstein 作曲 福永陽一郎編曲 玉木隆寛 指揮
11. 大地讃頌 混声合唱のためのカンタータ「土の歌」より  
大木惇夫 作詩 佐藤眞 作曲 石川雅子 指揮
12. 早春 混声合唱組曲「蔵王」より  
尾崎左永子 作詩 佐藤眞 作曲 佐藤隆衛 指揮

今回のステージは、今から3～4年前に当時の現役幹事と若手OBで構成された「50周年プロジェクト」という委員会に端を発する。その会で、今回のコンサートの方向性の検討を始めたのだが、そこで出た一番大きなコンセプトが1期から現役まで、さらに未来へとアカデミーを繋げるコンサートというものであった。

その後、「選曲委員会」を立ち上げ、昨年春から具体的な選曲作業をスタート。アカデミー50年の歴史を彩る様々な曲を、過去の様々な出来事と合わせて絞り込む一方で、1期から49期まで、歴代学生指揮者延べ42名に声を掛け希望者を募った（近年、1学年につき1名の学生指揮者が選出されているが、創立から20年程は、1人が2年間担当していた時代、あるいは1学年に2名の指揮者を選出していた時代もある）。選ばれた曲と指揮者との調整を行い、このコンサートのために「法政大学アカデミーフェスティバル合唱団」を募集・結成し練習を開始したのが昨年の11月。一方で現役は、震災の影響で例年よりスタートが遅く、GW中の春合宿から讀みを開始、5月中旬より現役・OBの合同練習を開始し、今日の「つながる」というステージを演奏するに至った。

歴代学生指揮者12名がタクトをとり、選曲に関しては、50年の歴史の節目で歌われたものが主となっている。

アカデミーは、例年この時期に「アーリーサマーコンサート」という演奏会を開催しており、1987年よりほぼ毎年、自らの愛唱歌から選んだ「愛唱歌ステージ」というステージを持っている。今回は、単なる愛唱歌だけではなく、アカデミーの歴史を紐解き、改めて紡ぎ直す作業を行い、コンセプトに沿った100周年へと向かっていく願いを込めて、「つながる」というステージ名とさせて貰った。

本日の演奏会が51年さらに100年へと新しい朝に向かうように未来へと「つながる」ことを願って、50年の歴史のつながりだけでなく、仲間とのつながり、そして歌と人とのつながりを感じて頂ければと思う。

ところで、アカデミーが創立当初、選曲の方針としていたものがある。それは、「ヨーロッパの伝統を学ぶ。」「日本の新しい合唱曲をうたう。」「世界の民族音楽を体験する。」「青年の興趣と合致するポピュラー・ソングを採り上げる。」の四項目であった。

第一回の定期演奏会は、まさしくこの項目に沿った形で、バレストリーナの「ミサ・イステ・コンフェソール」、佐藤真の「魔王」、黒人霊歌、ミュージカル「WEST SIDE STORY」の4ステージが演奏された。

アカデミー合唱団の常任指揮者であった故・福永陽一郎先生の言葉では「ヨーロッパ合唱曲の始祖バレストリーナにあっては、比較的近づき易い四声部のミサ曲が採られ、日本の合唱曲としてはその前年発表されたばかりの新曲(注「魔王」)を、民族音楽としてはもっとも色彩の濃い黒人霊歌を、そして、映画が記録的な人気を博していたミュージカルは、作曲手法としては現代的なクラシック音楽であるレナード・バーンスタインのものをというわけである。」(法政大学アカデミー合唱団30年記念誌「陽ちゃんと歩んだ30年」より)

アカデミーと切り離して考えることが出来ない福永陽一郎先生。彼は指揮者として1975年全日本合唱コンクール大学の部金賞へとアカデミー合唱団を導く。当時、男声か女声合唱団しかコンクール金賞を獲得していなかった時代に混声合唱団として初めて金賞を獲得し、そのまま1977年までの3年連続金賞獲得という前代未聞の快挙を成し遂げたのだ。また、編曲者としても深く携わり、多くの曲をアカデミーに残した。ミュージカルでは、「THE SOUND OF MUSIC」、ポップスでは「ビートルズ曲集」「We are the World」など常に時代の流行にいち早く反応し、編曲したものをアカデミーで初演していた。本日の演奏される曲では「法政大学校歌」、「WEST SIDE STORY」の「Tonight」が福永先生編曲のものである。

他の曲でいうと「わたしの動物園」の終曲「ひよっこ」は福永先生が最初に録音をした邦人作品であり、同じく大中恩作曲の「鳥よ」はアカデミーで幾度となく演奏され、単純な演奏回数だけをみても彼が好んで採り上げていた曲といえよう。「鳥よ」は「作曲家自身よりも大中作品がわかる」と福永先生が自認するほどで、コンクールで初めて金賞を受賞した際の自由曲でもある。同じコンクールの課題曲であったのが「ラシーヌの狂歌」で、コンクールでは原語で歌ったが、本日は萩原英彦の音訳で演奏する。それから7年後、アカデミーがヨーロッパカンタタに日本代表として参加しヨーロッパ演奏旅行に行った1982年の定期演奏会で演奏されたのがアイルランド民謡の「My Gentle Harp」。『MY FAIR LADY』は、福永先生本人の編曲もあるが、本日は、そのヨーロッパ演奏旅行の際、先生が現地で購入した楽譜で2年後にアカデミーで採り上げた版で演奏する。創立当時から再三採り上げた「黒人霊歌」は、福永先生自身は地声混ざりの発声や女声が少ない人数比などをカバーするために採り上げていたというが、当時は「ニグロ(=黒人霊歌)のアカデミー」とまで言われしめたと聞いている。本日は、その中から「Soon ah will be done」を演奏する。

そして、1990年福永先生が亡くなられた後、音楽顧問となられた関屋晋先生が1992年混声版として初演し、今や中・高校生の合唱コンクールの定番曲となった「地平線のかなたへ」より「春に」。2001年ヴェルディ没後100年によせて、小久保大輔先生がアカデミーで初めて指揮をされた「NABUCCO」より「行け、我が想い、黄金の翼に乗って」。2003年より北村道一先生の指導を3年間だけ頂く機会を得たが、当時北村先生の指揮でも、また先生が亡くなられた後の2007年追悼演奏会でも演奏された「鳥が」。この曲は、初演の翌年である1983年にアカデミーでも演奏されて以来に聞きた、ほぼ全てのアカデミアンが歌うことの出来るまさに「愛唱歌」の一つであり、2008年に作曲家(新実徳英氏)をお呼びして「幼年連続」を演奏した際にもアンコールで演奏された。2007年の定期演奏会で演奏された「WEST SIDE STORY」の「Tonight」は、前述したとおり第一回の定期演奏会でも演奏された曲である。2002年より客演指揮者としてお呼びしている浅井敬豊先生が必ずアンコールで指揮をされる「大地讃頌」は、2009年にこれも作曲家・佐藤先生ご自身をお呼びして「魔王」演奏した際にもアンコールで演奏された。どの曲も、ほぼその年代に歌われた曲をその年代の学生指揮者によって演奏する。

第一回定期演奏会で採り上げられた「魔王」と「WEST SIDE STORY」は本日も演奏されるが、50年の時を経て新曲としてではなく名曲として採り上げられることを考えると、いかに半世紀という年月が様々なものを成熟させてきたかと思う。

現役とOBが合同演奏をする機会は過去にも多々あったが、今回の演奏会ほど積極的に現役とOBがお互いに関わりあい、一つの目標に向かったのは初めてといっても過言ではない。今回のステージのために、地方から練習に来ていた者も多くおり、「法政大学アカデミー合唱団」という一つの共通点で、年齢も性別も環境も違うものを結び付けた結果が今日のステージだ。「心ひとつに」と皆が語る今日。言うは容易く、行うは難く、12曲もある壮大なステージに向かっていくことは、容易な事ではなかった。思い出深い曲といえども、各々がアカデミーにいたのは大学の4年間であり、今回の12曲を過去に全曲歌ったことがあるメンバーは1人もいなかった。そして言うまでもなく、今年入学した一年生(53期)のほとんどは全曲を初めて聴いたということだ！恐るべき吸収力をたたえるとともに、これからの未来を担う彼らに拍手を送っていただきたい。

どこかの一年でも欠けてしまったものなら、この50周年は成し得ないものであった。1人1人の大学4年間が一年ずつ遅れてカノンのように重なり合った50年は、果たしてどんな和音を奏でるのか。

星と星をつなぐことで星座ができるように、私たちは人と人をつなぐことで合唱ができた。

「あいうえお」の数だけ年を重ねた半世紀の合唱団。

「そこにはいつでも、歌がある」。

最後まで、どうぞお楽しみに。

(48期・石川雅子)



## ハーブ 山崎祐介

やまざきゆうすけ

東京藝術大学音楽学部を経て同大学大学院修了。  
「新日歌コンサート」や「バリのサルガッヴォー」のコンサートシリーズに出演、ソリスト、室内楽奏者として活躍している。

2010年4月、香港にてリサイタルおよびマスタークラスを開催するなど、国内外で精力的に演奏活動を行う。  
第8回村松賞受賞、昭和音楽大学講師、洗足学園音楽大学講師を務め後進の育成にも力を注いでいる。日本ハーブ協会副会長。

大学在学中に、法政大学アカデミー合唱団第21回定期演奏会に出演。また翌年、演奏旅行(静岡・岐阜・和歌山)にも同行し、各地で好評を博す。指揮者の渡辺とは、和歌山以来、28年振りの共演である。

# Profile & Message



指揮者  
**小久保 大輔**  
こくばだいすけ

東京音楽大学音楽科卒業。指揮を桐田正章、沙津安彦の各氏に、トランペットを林昭世氏に師事。在学中よりアマチュアオーケストラの指揮にあたり、2000年より東京文化会館オーケストラフェスティバルにおいて新日本交響楽団を指揮。2001年、横浜カンツォーレ公演オペラ「毒か葉か物語」「復讐」を指揮。同年、20世紀音楽の研究・演劇団体「ガレリア」を設立。2004年からはプロ交響楽団ガレリアウインドオーケストラとしても活動を展開させた。2009年より劇団四季においてウエストサイド物語「サウンドオブミュージック」を指揮。

現在、マルチナショナルプラスアンサンブル・東京農業大学全学応援吹奏楽部各音楽監督、入間市管弦楽団・バスターナルフィルハーモニー管弦楽団・横浜ルミナスコール各常任指揮者、鎌ヶ谷フィルハーモニック管弦楽団・藤沢福音コール各指揮者。

法政大学アカデミー合唱団 50周年記念フェスティバルのご開催、誠にありがとうございます。

アカデミーをはじめで職いたのは、いつだったでしょうか…。演奏会を聴くというよりは、なかなか会えない祖父福永陽一郎の後ろ姿を見に、親に手を引かれ、慣れないブレザーを着て会場へ訪れたことをぼんやり覚えています。ただひとつ、夜のうたの「ひとりぼっち」の響きの奥深さに泣きそうになったことだけは、今でも忘れることができません。

時を経て、陽一郎が天に召されて10年ほど経ったアカデミー40周年から、私もアカデミーの仲間として、たくさんのお学生と、たくさんのお歌を歌っているうちに、さらに10年の時が過ぎてしまいました。

「先生」と呼ばれるにはあまりに未熟であった(今も至りませんが)私を、導き、支えてくださった久野先生。多くの示唆を与えてくださり、「本物」を体験させてくださった関屋先生、北村先生。人間のあり方全てで私たちに道を与えてくださる浅井先生。声、言葉の何たるかを示し、私たちが「舞台に立つ人」に鍛え上げてくださる大久保先生。そして、ちょうど1年前、ドイツレクイエム終演後に「ブルームもいいけど、そろそろ大ちゃんのパピューラっぽいのも聴きたいな。新しい歌のブルースとか、素敵だったもの」と皮肉まじりに笑っていた瀬戸理恵子先生。

素晴らしい先生方に恵まれ、それぞれの瞬間を輝かせながら、勝るべき「アカデミズム」のバトンが、いつまでもあたらしい歌と共に受け継がれていくことを、願ってやみません。



指揮者  
**尾崎 徹**  
おがさわらとほる

1958年7月 福岡県門司生まれ。4歳よりピアノを始め、中学校時代はブラスバンドに熱中するも、大学入学後の福永陽一郎との出会いがその後の合唱人生を決定付ける。

職場やOB合唱団の指揮を務める傍ら、テナーソリストとしてこれまで第九やモーツァルト「レクイエム」などのレパートリーで多くのオーケストラと共演。来月8日にはチェコのストラホフ教会において、ヤングプラハ創立20周年記念プレコンサートのソリストとして、キューン聖声合唱団、ハウス室内オーケストラとの共演が予定されている。

現役の皆さん、この日を熱い気持ちで待ち望んでいた会場の皆様方や私達OBの祝福を受けながら記念すべき今日のステージに立てたことはとても名誉なことです。それは末長く誇らしいことでしょう。そして、会場の皆様方に支えられつつまた次の50年を迎えるこの起点に皆さんがいることも羨ましい限りです。

残念ながら今日は現役諸君の前でタクトを振る機会はありませんが、いつかはきっと「こちら側」かつて福永先生がOB側をそう呼んだ一に來てこれから次の50年につながる役目を担ってくれることを心より楽しみにしています。

さあ、次の50周年に向けてまた新たな時代を築いていく仲間として、会場の皆様と、そして私達OBと一緒に本日は演奏する喜びを分かち合い歌い継いでいきましょう。



ヴォイストレーナー  
**大久保 昭男**  
おおくばあきお

1953年、東京藝術大学音楽学部声楽科を卒業。矢田郁助吉氏に師事。1953年5月、NHK オーディションに合格。数多くの放送、演奏会に出演。近衛秀麿指揮、青山杉作演出によるオペラ「カルメン」、山田耕作作曲、本人指揮のオペラ「黒船」(初演)、ドヴォルザーク作曲のオペラ「ルサルカ」(初演)などにも出演。1959年にはドイツ・リートおよび日本歌曲による第1回リサイタルを開く。その後、渡麗ワグネル、立教グリーン、早稲田コールフレッシュ、大東文化演声、早稲田高等学院グリーン、しなの合唱団などのヴォイストレーナーとして幅広く活躍し、現在に至る。元、東京藝術大学講師。

今年も法政アカデミー合唱団のアーリーサマーコンサートの季節になりましたが、毎年と違って本日は50周年フェスティバルという特別の大きな演奏会を迎えます。

アカデミーの定演では、浅井敬豊先生との演奏で特に素晴らしい、感動的なステージであったことは、沢山の人の心に残って居ります。私の立場上、もっと高度な声を普段から鍛えておかなければなりません。今後も共に努力を重ねていきましょう。

本日の演奏は、色々の指揮者により歌われますが、思い出の多いものとなることでしょう。50周年からまた大きく羽ばたいていく立派な合唱団であります様、折ってやみません。



ピアニスト  
**久邇 之宜**  
くにゆきのよ

国立音楽大学ピアノ科卒業。クワイツァー妻子、近藤孝子氏に師事。伴奏法を小林道夫氏に師事。二期会、東京室内歌劇団、NHKなどで伴奏者として活動を開始するが、さらに研鑽を積むため、ウィーン国立音楽大学へ留学し、ロベルト・ショルム氏に師事する。帰国後、数多くの声楽家と共演し、好評を得ている。また、音楽合唱団等アマチュアとの共演も多く、現在、最も信頼のおけるピアニストのひとつとして活躍が著しい。現在、東邦音楽大学教授。

法政大学アカデミー合唱団50周年フェスティバル公演に際し、心よりお慶び申し上げます。

私自身は第10回記念演奏会より参加させていただいていますが、法政大学混声合唱団より分かれて福永隆一郎先生のもとに「アカデミー」の名を冠して旗揚げなさった頃のご苦労は、10期までの諸氏より色々伺っております。時あたかも学生運動華かなりし頃で、当時の練習会場であった62年館にロックアウトされて、警官隊に保護されて退出する事ができたなど、今では考えられない事もありました。そのような騒然とした中で、しっかりと合唱の根本を押さえた活動を、福永先生のもとで展開し、先生亡き後は岡屋晋先生、北村協一先生、日本を代表する合唱指揮者の指導を頂き、現在は浅井敬豊先生に面倒を見てもらっているこの合唱団は、本当に幸せであると思えます。

本日は後半のステージで、この50年間歌い続けてきた数々の思い出深い曲をお聴かせする事ができると思いますが、あらためて振り返ってみると、本当に感慨深いものがあります。ある意味でこの50年の歴史を一夜の演奏会で再現する、という事は、走馬燈のようなもので、「この気持ちは」なんだろうと思われま。長年この合唱団のヴォイストレーナーを務めてくださった瀬戸理恵子先生を失うという深い悲しみも経験し、また一方でこの3月に日本を襲った大震災を満中の大船で体験された1期生の佐藤先聖が、元気に指揮して下さるとい喜びもあります。

このアカデミー合唱団の歴史を少しでも追体験していただければ幸いです。



女声ヴォイストレーナー  
**瀬戸 理恵子**  
せとりえこ

東京藝術大学、同大学院ソロ科修士課程修了。NHK 音楽新人オーディションに合格、FMフレッシュコンサート出演。在学中に数大メサイアのソロを飾るなど、数枚作品を獲得し、モーツァルト「レクイエム」、プーランク、ドヴォルザークの「ミサ」また第九などを、数々の合唱団と共演。オペラでも、「ファウスト」「魔笛」「カルメン」など数々出演。ヴォイストレーナーとしても活動。師である瀬山詠子氏の主宰する「詠の会」に於いて、近代から現代における日本歌曲を研究する。瀬山詠子、白石歌子、藤沼伸美、各氏に師事。二期会会員。

瀬戸理恵子先生は、2011年6月16日にご逝去されました。長年に亘るご指導に感謝するとともに、先生のご冥福をお祈り致します。